

みんなあでつながる!ひろげる!地域のチカラ

プラットふくし

こ

う

ち

高知県社会福祉協議会広報誌

福祉用具展示コーナーのすすめ

福祉用具

きてみてためして!



contents

特集「きてみてためして!福祉用具 福祉用具展示コーナーのすすめ」	2
ボランティア・NPO 情報 てをつなGO!	6
こねくと高知 リぐらっぶ高知	
シニアのちょっといい話	8
チチナロの会 みんなでイキイキ麻雀	
プラットこうち人 中島匠一さん	10
高知県社協からのお知らせ	11
こうちの sweet なはなし	12
野いちごの場所 さんかく広場	

2025
12月号
vol.14



くるむように
引き上げることができ
補助される側も安心！

移動用リフト

ベッドから車いすへの移動、お風呂やトイレへの出入りなど、介護する側・介護される側双方に身体的な負担や危険が伴うのが、暮らしの中における「移動」の場面。**移動用リフト**は、こうした場面で活躍する福祉用具で、介護者をそのまま吊り上げて移動させたり、椅子などを台座ごと持ち上げて移動させることができます。



さまざまな
症状に応じて必要な
用具が用意されています

入浴関連器具

水に濡れて滑りやすい浴室は危険がいっぱい。手すりや椅子、滑り止めマットなどを組み合わせ、安全な入浴環境をつくることができます。

手元のコントローラーで
さまざまな角度や
形に変更できます！



電動ベッド

リモコンひとつでベッドの高さや角度を自分好みに調整できる**電動ベッド**は、楽な姿勢で過ごすことができ、身体も起こしやすいのが特徴。介護したり生活を補助する人にとっても使いやすい大きさや高さになっており、専用のマットレスなどを用いることでさらに快適に過ごすことが可能です。

移動用リフトと
一体的に使える
電動ベッドの展示も！



キッズの部屋

福祉用具展示コーナーには、身体が不自由な子どものための部屋も。椅子に座りにくければクッション型の座位安定補助具を。寝ている時であれば、身体に負担をかけずにリラックスできるようなクッションを使うなど、快適な暮らしをするための仕掛けがいっぱいです。

きてみてためして！ 福祉用具

福祉用具展示コーナーのすすめ

腕が上がりにくくて、思うように服を着ることができない。
腰や膝が痛くて、前のように歩けない。病気をして以来、ちょっとした動作がしづらくなった。
今回の「プラットふくし」では、毎日の暮らしの中でちょっとずつ増えていく
さまざまな「困りごと」を細かくサポートしてくれる車椅子や歩行器、
移動リフトなど1000点近い福祉用具を展示している
《県立ふくし交流プラザ》内の福祉用具展示コーナーをご紹介します。

用途別に応じた
歩行器もチェック！



コーナーでは
どの機種にも
自由に乗りことができます

歩行車と車いす

歩行車は、立ったまま体重を支えながら移動できる車輪付きの福祉用具。収納が付いていたり、買物カゴなどを置くことができるようになっているものもあります。
車いすは歩くことが困難であったり、長距離を移動する場合などに用いるもので、自分で操作する自走式や電動式のほか、介助者が操作する介助式などがあり、福祉用具展示コーナーでは体験も可能です(4ページ参照)。

「自立した生活を助ける」という意味を持つ福祉用具が**自助具**。指先の動きが鈍くなった人でも使いやすい箸やスプーン、すくいやすく持ちやすい形の皿やお碗、虫眼鏡の付いた爪切り、ボタン掛けをしてくれるフックなど、さまざまな暮らしの場面に応じたものがあります。

自助具



自助具を使って
楽しく食べて
元氣モリモリに！

腰をかめるのが
大変な人向けの
くつ下をはくための道具も！



装着しやすく、
ファッショナブルな
帽子や靴がいろいろ！



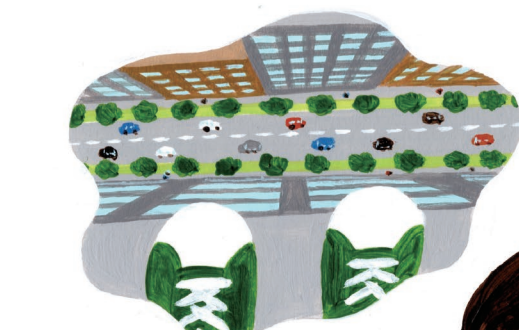
介護靴と保護帽

軽量で滑りにくいから歩きやすく、簡単に履くことができるから負担も少ないのが**介護靴**。外出用や自宅用など用途に応じてさまざまな種類の靴があります。オシャレなデザインのものも増えている**保護帽**は、もし滑って頭を打ったりしても衝撃を少なくしてくれます。

体験してみよう！ 認知症や介護のこと

VRゴーグルで 認知症の症状を 疑似体験する

視空間の失認症やレビー小体型認知症による幻視、認知症になった高齢者視点による物事の見え方などを、VRゴーグルを装着して体験できます。一般的にはどういったことが起きるのか知られていないことが多い「認知症」への理解を深めることができます。※体験は13歳以上



「私をどうするのですか」編
突如混乱をきたしたりする
認知症の中核症状を体験



「レビー小体型病幻視」編
見えないものが見えたり
止まったものが動いて見える
幻視の世界を体験

車いすの 操作や介助を 実際に体験する

電動式や介助式、自走式などさまざまな車いすの操作や試乗を通し、車いすによる介助方法や車いすが必要な方の状況を理解することができます。



重りをつけて 高齢者の身体を 疑似体験する

足や腕に取りつける重りやサポーター、視野が狭まる特殊な眼鏡などを装着し、加齢による身体的な変化を疑似的に体験。高齢者の気持ちへの寄り添い方や介護方法を考えるきっかけになります。

福祉用具展示コーナーでは、「なっていない人」にはどのように対処したら良いのかよくわからない認知症や、身体が以前のように動かなくなってしまった高齢者の方々の気持ちや心情を理解するための体験をすることができます。いずれも体験は無料ですので、お気軽にどうぞ。

「やすおじいちゃん物語」編
認知症と診断された
おじいさんを取り巻く
家族の対応パターンを
本人の視点で体験



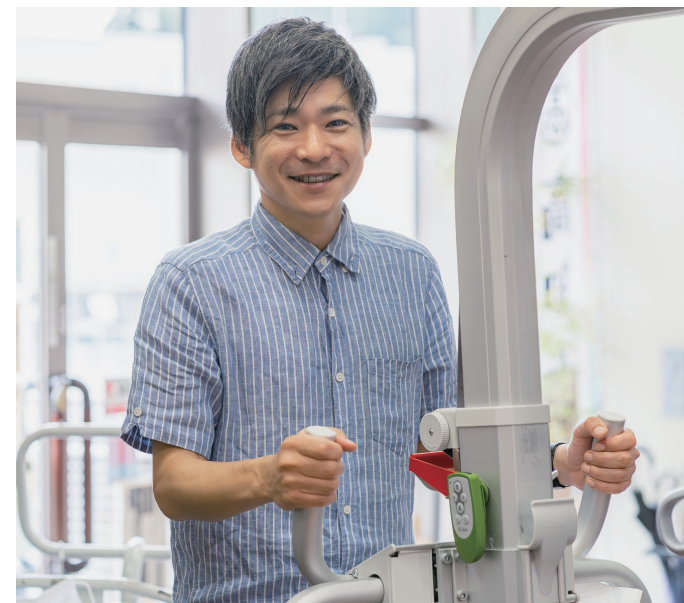
「ここはどこですか」編
「困った体験」への
無意識の偏見を通し
認知症の問題を再認識



INTERVIEW 高知ふくし機器展のこと

《県立ふくし交流プラザ》では毎年1回、『誰もが生活を快適で、豊かにできる福祉機器を幅広く知っていただくこと・どこに住んでいても、どんな状態であっても自分らしく生活できる高知県にすること』を目的に、「高知ふくし機器展」（以下機器展）を開催しています。この機器展の実行委員長を2010年から現在に至るまで15年間にわたり務めている二宮康公さんに想いをお聞きました。

二宮「機器展」には、普段医療福祉現場で働くスタッフが企画や運営に関わり、県内外の福祉機器メーカーは当日の運営に携わっていて、お互いに情報交換をする貴重な場になっています。自分たちが普段勤めている職場以外では、同じ職種の人や他職種の人と関わる機会が少ないため、機器展の場は様々なプロフェッショナルと関わることができ、刺激にもなっています。機器展は今年で23回目ですが、これからも福祉機器メーカーさんに協力をしていただきながら、高知県民の方が必要な情報を得られるようスタッフ一丸となって機器展を継続し、皆さんに「高知の機器展っていいよね。高知ふくし機器展があって良かった!」と思ってもらえるようにしていきたいです。



第23回高知ふくし機器展 バリアフリーフェスティバル

どんなときも、自分らしく！
見て！触れて！試して！

いすブースやおしりまわりブースなど14のブースがあり、それぞれのブースで普段医療福祉現場で働くスタッフや県内外の福祉機器メーカーのスタッフが機器の紹介や試用、相談に対応してくれます。
令和8年1月23日(金)・24日(土)
10時～17時(24日は～16時)
場所:県立ふくし交流プラザ



四万十市ではじめて開催！ ふくし用具出張展示会 in 四万十市

四万十市で初となる「ふくし用具出張展示会」を令和7年6月に開催しました。当日は80名以上の来場があり、さまざまな福祉用具に触れていただくことができました。相談には「高知ふくし機器展」のスタッフが対応し、丁寧な聞き取りとその方に応じた助言をしました。来場者からは「幡多で展示会をしてくれて嬉しかった」というお声もいただきました。来年度以降も高知県内各所でふくし用具出張展示会を実施する予定です。

お気軽にお問い合わせください

県立ふくし交流プラザ1F 福祉用具展示コーナー

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ1階

TEL.088-844-9271

FAX.088-844-9411

MAIL. kaigohukyu@pippikochi.or.jp

※福祉用具の販売はしておりません。
※福祉用具の貸出は最長2週間まで可能です。



一般社団法人 りぐらっぷ高知

高知県高知市石立町55-5
(地域活動支援センターぐらっぷる)
電話番号: 088-856-6604



HP



Facebook



X



①ジグソーパズル作成
⑥コラージュアート体験



《一般社団法人りぐらっぷ高知》(以下りぐらっぷ高知)は、高知県内をフィールドに精神的な困難や生きづらさを抱える人々の「元氣回復」を力強くサポートしている団体です。約12年前に任意団体として発足し、2019年に一般社団法人となりました。名称は、土佐弁の「リグル(遊ぶ、寄り添う)」と、元氣回復行動プラン「WRAP(ラップ)」を組み合わせたものです。活動は、リカバリー(元氣回復)を重視したプログラムの普及と、安心できる居場所の提供が中心となっています。

元氣回復行動プラン

「WRAP(ラップ)」の普及

「WRAP(Wellness Recovery Action Plan: 元氣回復行動プラン)」は、精神的な困難を経験した当事者たちが、自分らしく元氣に暮らすために、どのように元氣になっていったのかを調査し、その共通点や工夫をまとめたプログラムです。

WRAPのプランづくりでは、自分が元氣になるために必要なこと、調子を崩しやすい状況とその対処法をあらかじめ計画します。これは、医療任せにするのではなく、日々の生活の中で自分にできることに気づき、自分の状況を早めにキャッチして対処する「自己モニタリング」を促すものです。プランづくりは一人でも可能ですが、複数人で経験を共有しながら進めるところに面白さがあり、セミナー等も開催されています。

ピアサポーターの育成と派遣

《りぐらっぷ高知》は、2021年から高知県の「ピアサポーター養成研修事業」を受託しています。ピアは「仲間」、サポートは「支え合い」を意味し、自身の精神障害による経験をもとに同じ立場にある人と支え合う活動を「ピアサポート」といいます。養成研修は、基礎研修2日間と専門研修2日間の計4日間で構成さ

れ、修了すると県知事からの修了証が交付され、全国で通用します。
また、研修修了者の中から登録された方々に自身の体験談を病院の研修などで話してもらうために派遣する「精神障害者のピアサポーター派遣事業」も県から受託・実施しており、2024年は延べ100件程度の派遣実績があります。

対等な交流の場「ぐらっぷる」

《りぐらっぷ高知》の現在の活動拠点には、地域活動支援センター「ぐらっぷる」です。ここでは、障害や生きづらさを抱える方に対し、ピアサポートを中心とした対話を通じて、学び合いや交流の場を提供しています。大きな特色は、支援する側とされる側の壁がない運営です。利用者自身が持つ「力」を引き出し、「自分を取り戻して帰って行く」場であることから励まされるという相互的な関係性を重視しています。



地域活動支援センターぐらっぷるの内装

高知県における 居場所と 支え合い

生きづらさや困難を抱える人々が孤立せず、安心して繋がることのできるコミュニティの創出は、

SDGsの基本原則である「誰一人取り残さない社会」の実現にとって欠かすことができません。

また、世代や属性を超えた交流の場を通じてお互いを認め合い、自発的な相互扶助(共助)の輪を広げていくことは、誰もが自分らしく暮らせる地域社会の実現にもつながっていきます。

今回紹介する2つの団体は、

「支援をする側」と「支援をされる側」とが

コミュニケーションを取りあひながら共に支え合う関係性の構築を図り、

「支え合い」ができる場の創出に取り組んでいます。



月に一度行う定例会の様子

今年6月、高知県在住の犯罪加害者家族の支援に特化した新たな団体《特定非営利活動法人こねくと高知》(以下こねくと高知)が宮城県、大阪府に次ぐ全国で3つ目の専門団体として設立されました。代表の岩城慎人さんは、宮城県で犯罪加害者家族の支援を行う特定非営利活動法人 World Open Heart 主催の講演会で、生きづらさや困難を抱えながらも高知県内ではサポート体制がなく県外の支援団体に頼らざるを得なかったケースが30件もあったことを知り、県内に支援の受け皿を作る必要性を痛感し、活動を開始させました。

多職種連携による 「ワンストップ支援」

《こねくと高知》は高知県内在住者を支援対象として活動しており、支援の特徴は、司法書士、不動産関係者、心理士、社会福祉士といった多様な専門職が関わって行っているところです。この専門職のネットワークを活かし、相談者が複数の機関を渡り歩くことがないよう、「ワンストップ」での対応を心がけています。

ホットラインへの電話相談は主に代表の岩城さんが対応し、受けた相談内容はオンライン会議を通じて役員間で常に共有しています。これにより、担当者一人の問題を抱え込むことなく、各専門分野の知見に基づいた支援を目指しています。

支援を取り巻く厳しい社会環境

加害者家族への支援が進まない背景には、加害者とその家族を同一視する「世間の目」や同調圧力が根強く存在すると、代表の岩城さんは指摘しています。しかし、事件によって生じる経済的困窮や精神的負担、誹謗中傷といった問題は、被害者家族と加害者家族に共通する部分も多いと語ります。

《こねくと高知》では、支援を「する側」と「される側」に分けるのではなく、お互いがコミュニケーションを取り、支え合う関係性を築くことを目指しています。事件を起こした本人だけでなく、「一人ひとり人格をもって、明日ある家族をどう支援していくか、どういうふうな生活が落ちついていけるか考え活動していくことが大切」との理念を大切にしています。

開所時間は10時から15時で、土曜日は仕事を持つ方も含め利用者が多い傾向があります。利用者はプログラムへの参加・不参加を自由に選べ、おしゃべりやゲーム、絵描きなど、自由に過ごすことができます。また、ニックネームの使用を推奨することで、誰が支援者で誰が当事者か分からないような対等な関係性を意図的に作っています。

地域に開かれた未来への展望

《りぐらっぷ高知》は、利用者自身が持つ「力」を活かし、利用者が講師となってプログラムを提供するなど、立場を変えた多様な関わり方を促進したいと考えています。

また、障害福祉サービスの事業所ではありますが、診断名のない人や一般的なメンタルヘルスも含めて、「生きづらさや居場所を求めている人」なら誰でも使える場として、地域の中で多様な人の交流が生まれる場所になりたいと願っています。

団体の支援を 充実させるために

設立から間もないということもあり、本当に支援を必要としている人にしっかりと情報を届けられるように認知度をより向上させたいと考えています。また、相談すること自体にためらいがある人へのアプローチや、関係機関への周知も今後行っていく必要があります。

そのためにも、親しい人には言えない悩みを打ち明け、自分の言いたいことを整理できる「家族会(ピアカウンセリング)」の開催を積極的にしたり、身寄りのない人の増加や親族関係の希薄化などの社会問題を意識した家族支援を心がけていきたいと団体の皆さんは語ります。

《こねくと高知》では、犯罪加害者家族を孤立させないために、今後も様々な取組に挑戦していきます。

特定非営利活動法人 こねくと高知

高知県高知市桜馬場5-8
メール: info@koneko.or.jp
電話番号: 090-9646-9620



HP



相談チラシ

つながる、ひろがる、セカンドライフ。 シニア世代の生きがい・健康づくり いっしょの 話 vol.14

シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。

たくさん笑ってたくさん食べる居心地の良さ チチナロの会 大豊町



年齢を問わず、和気あいあいと皆で楽しむ

仲間が仲間を呼ぶ、楽しい食事会

今から約8年前、代表を務める小松恵子さんの「ちょっと集まってお茶でも飲まんかね～」という一声から始まったのが、大豊町の山間にある津家地区で月に1度近所の人々と食事会をする『チチナロの会』。はじめた頃は4、5人だった会員は現在11人になっています。

食事会の準備は朝の8時頃から、調理係を務める会員が食材を持ち寄って調理をはじめます。取材に訪れた日は五目御飯に鮎の塩焼き、ミョウガのお汁など色とりどりのメニューで、ご飯を炊く係、汁物をつくる係、鮎を焼く係などそれぞれが役割分担し、手際よく調理がされてゆく。お米は昔ながらの手法で「羽釜」で炊き上げており、「もし災害が来ても、羽釜なら米が炊けるき安心よ!」と小松さん。



楽しい「居場所」の大切さ

いよいよ食事ができあがるお昼になると、食事会がスタート。箸で料理をつつきながらもメンバーそれぞれからさまざまな話が飛び出し、笑い声が止まることはありません。会の参加者に感想を聞くと、料理の感想よりも先に「みんなの話が楽しゅうて、一カ月分笑うた!」という声が出てくるほどで、そんな楽しさをみんなでお裾分けと言わんばかりに新しい仲間がまた新しい仲間を呼びこみ、来客者がどんどん増えているのだといいます。今では、フレイル予防活動を実施するサポーターや脳梗塞当事者の集いのグループや大学生、大豊町役場の職員も集まってくる会に発展し、これまで一番多い日には20人もの人々で食事をしたこともあるのだとか。

急激な過疎が今も進んでいる大豊町で、メンバーの誰もが和やかに楽しく過ごせる居場所があること、そしてこの場所が地域住民だけでなく地域の外にも繋がっているということは、とても貴重で価値があるものだと感じました。代表の小松さんは「皆でこれからも元気におるために、活動を続けて今後もみんなで集まれるようにしていきたい。」とハツラツとした笑顔で話をしてくれました。



みんなでイキイキ麻雀 高知市

気楽に通える居場所づくりを目指して

高齢男性の孤立や閉じこもりを防ぎたい

高知市西部の住宅地である福井・横内エリアでは、高齢男性の孤立や閉じこもりといった地域課題が顕在化していました。それを解決するための《男性の居場所づくり》を高知市社会福祉協議会や旭街地域包括支援センターなどで協議を重ねていたところ、地域住民から上がってきたのが「麻雀がしたい!」との声でした。

こうした流れを受け、麻雀に詳しい北村公一さんに活動の場づくりについての依頼があり、同じように地域で活動していた初対面の2名とともに毎週金曜日に麻雀と交流を楽しむ『みんなでイキイキ麻雀』を2024年8月に発足。高知北環状線沿いにある老人ホーム「福寿園 元氣ふれあい館」で活動を始めると、参加希望の相談があちこちから入るようになり、発足からわずか1年足らずで30名ほどの会員が集まるようになりました。

認知症予防も期待できる居場所づくり

男性の居場所づくりを目的に始まった『みんなでイキイキ麻雀』ですが、女性メンバーも10名ほど所属し、ますます賑やかになっています。麻雀を知らない人が参加した場合でも、先輩メンバーたちが丁寧にルールを教え、楽しく和やかに活動しているそうです。

そもそも麻雀は頭や手先を使うゲームであり、脳の活性化や認知症予防が期待できます。手役や点数など覚えることも多く、記憶力の向上にも繋がります。自分以外のプレイヤーの手牌を想像し、また相手にも自分の手牌を想像させる「駆け引き」も醍醐味のひとつです。

会費無料! いつでも参加OK!

北村さんはメンバーの居場所づくりのために活動を継続することが何より大切と考えています。

「毎回参加していた方が数回休むと、なんとなく参加しづらい気持ちになり、そのまま退会してしまう、という話をよく耳にします。でも、『みんなでイキイキ麻雀』では気にすることは全くありません。『お久しぶり!』と、みんな笑顔で大歓迎です。ぜひ、おいでください。ここは、『みんなで麻雀ゲームを楽しもう!』をモットーに《いつでも参加OK!》、《休みも自由!》、《途中から参加、途中で帰るのも大丈夫!》。小さなことは気にせず、とにかく麻雀ゲームを楽しむ場所の提供を心掛けています。」と話してくれました。

また、メンバーも北村さんの考えに共感し、懐かしの歌謡曲をBGMとして流し、他のメンバーが気軽に口ずさみながら麻雀を楽しむなど、誰もがいつでも自由に参加できる環境づくりに余念がありません。

メンバーの皆さんに話を伺うと、「毎回楽しく参加でき、活動日がある週末が待ち遠しくなります。たとえ負けても上手なプレイは仲間同士で褒め合っています。」とのこと。

北村さんに今後の活動方針などについて伺うと、「会費は無料で、メンバーは温かい方ばかり。初心者も経験者も楽しく過ごせるので、多くの方に遊びに来てもらいたいです。ほかの地区の健康麻雀グループとの交流会などができたら面白いと思っています。」と笑顔で活動をアピールしてくれました。



「高知の化粧水」は、敏感肌体質の中島さん自身がブランドエキスやセラミドなど900種類以上の成分を試し、構想から2年の歳月をかけて作り上げた力作だ。こうした中島さんの情熱と丁寧なもののづくりは、商品を手にする人々の心にも深く響いている。過去にポップアップストアを出展した際には、お客さんから思いがけない言葉をかけられることもあったという。自分では叶えられなかった、高知の良さを全国に広める（PRする）夢を中島さんが代わりに実現してくれ

「やってみたいとわからないことだつてあるし、苦手なことがあったとしても、きつと得意なことがある。その人の可能性を決めてはいけない」



高知の魅力を形に、商品とともに全国へ
日本語や漢字をカリグラフィを用いたアレンジした「高知」の文字を全面にデザインし、文旦やパイカオウレンなどを思わせる鮮やかな色を取り入れるなど、「高知」を意識せずにはいられないユニークなアイテムとして「躍ヒットした」高知の財布」。その仕掛け人が（株）ブランド高知を率いる中島匠一さん。高知の人たちが持つ隣人愛や人柄、自然に育まれた自由な気風といった魅力を全国に発信しようと立ち上げた会社だ。

たことに対し、「私の夢を叶えてくれてありがとう」と声をかけられたこともあった。中島さんの活動は、商品を通して高知の魅力を発信するだけでなく、高知を愛する人々の想いまでも形にしている。

そのことに、中島さんは改めて気付いたという。中島さんがブランド高知を設立し、多くの商品を開発できた要因の一つとして、「多動性を行動力に替えることでうまくいった」と語っていた。それぞれの人が持つ特性をうまく組み合わせることで、新たな発見と成長が可能となるのである。

技術と挑戦で高知の未来をつくる

中島さんのこれからの目標は、「高知愛」を拡げる活動を永続的に続けられるよう経営基盤を固めつつ、新たな取り組みにも挑戦し、誰もが自分らしく生きられる世の中を作っていくことだという。

そのために、まずはロボット産業といえは高知県だと言われる未来、そして高知の介護現場の人材不足を解消し、地域の暮らしをより豊かにしていくことを目指し、生成AIやプログラミング、ロボットアームの開発に取り組みたいと考えているそうだ。

高知県競馬組合から 寄付金をいただきました！

高知県競馬組合から令和4年度以降、毎年売り上げの一部を高知県社会福祉協議会に寄付いただいております。今年度も35,000千円の寄付金をいただきました。高知県社会福祉協議会では寄付金を地域福祉活動への支援や災害時のボランティア活動の支援等に活用する予定です。



寄付にあたって
高知県競馬組合 管理者 合田和穂 様
「地域福祉の推進に取り組む貴会の活動に賛同し、寄付をさせていただきます。活動の趣旨に沿って有効にご活用いただき、災害ボランティア活動支援や障害者スポーツ振興の一助となれば幸いです。」

[寄付団体] 高知県競馬組合（高知市長浜宮田2000番地）
[寄付金額] 35,000千円
[寄付金贈呈の趣旨] 地域共生社会の実現に向けた地域福祉活動の推進および災害ボランティア活動の支援
[寄付金の活用方法]
(1) 持続可能な地域づくり推進事業
NPO等を対象に地域福祉活動やSDGsを推進する活動等に対して助成します。
(2) 災害ボランティア活動支援事業
被災者の生活再建を支援するために被災地の社会福祉協議会を中心に設置される災害ボランティアセンターで活動に必要な資機材等の整備に要する経費について市町村の社会福祉協議会に助成します。
(3) 障害者スポーツ振興事業
共生社会の実現に向けて、障害者の自己実現、社会参加を促進するためパラスポーツ競技等の備品整備に対して助成します。
[問合せ先] 高知県社会福祉協議会
ボランティア・NPOセンター
TEL.088-850-9100
E-mail: kvnc@pippikochi.or.jp

ふくし就職フェアでお仕事さがし！

高知県内の福祉事業所が一堂に介する、福祉関係の仕事への就職を希望される方（新卒者・他分野からの転職希望者・再就職希望者等）向けの相談会です。
[開催日] 対面：令和8年2月14日（土）
WEB：令和8年2月19日（木）～21日（土）
[場所] 高知市文化プラザかるぼーと
高知市九反田2-1
[問合せ先] 高知県福祉人材センター
TEL.088-844-3511
E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

第54回高知県オールドパワー文化展を開催します！！

高知県内在住の60歳以上の方を対象に、芸術や文化に親しむことで生きがいや仲間づくりを図ることを目指し毎年開催されている「オールドパワー文化展」。思いの詰まった作品が披露されることを励みに、毎年たくさんの作品が出品されています。詳細については、（株）高知新聞企業ホームページをご覧ください。
[開催日] 令和8年3月12日（木）～17日（火）
午前9時～午後5時（初日は午前10時から、最終日は午後3時まで。）
[場所] 高知県立美術館 高知市高須353-2

令和7年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償（賠償責任保険、動産総合保険等）

① 基本補償（賠償・見舞）		保険金額	
賠償事故	身体賠償（1名・1事故）	基本補償（A型） 2億円・10億円	見舞費用付補償（B型） 2億円・10億円
	財物賠償（1事故）	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中）	200万円	200万円
	うち現金支払限度額（期間中）	20万円	20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償（期間中）	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
	被害者対応費用（1名につき）	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5～7万円 通院時 1～3.5万円	

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用責任賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉 TEL：03(3349)5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667
受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）



プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償

保険期間1年

▶年額保険料（掛金）	
定 員	基本補償（A型）
1～50名	35,000～61,460円
51～100名	68,270～97,000円
100名以降1名～10名増ごと	1,500円
基本補償（A型） 付見舞費用（B型） 保険料	基本補償（A型） 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円



野いちごの場所

高知市高須の電車通り沿いにある、赤いテントが目印の『野いちごの場所』。まだアレルギーに対応するお店自体が珍しかった30年前のオープン以来、「アレルギーを持った人でも安心して楽しめるお菓子を」との思いのもと、できる限り地元高知の食材を使った卵や乳製品・大豆不使用のお菓子づくりに一貫して取り組んできました。

着色料などの添加物などももちろん一切使っていないので、どのお菓子もかめばかむほど口いっぱいに素材本来の優しい味が広がります。最近登場したばかりの「米粉クッキー」は、高知県産の米粉をたっぷりと使った一品。お客さんたちからグルテンフリーのクッキーをぜひ作ってほしいという声を元に、長いあいだ試行錯誤を重ねながらつくりあげました。



(社福)土佐あけぼの会
障害福祉サービス事業所
『野いちごの場所』
高知県高知市高須本町5-32
TEL:088-880-4830(担当:松岡)

こうちの sweet なハナシ

社会福祉施設スイーツ図鑑



(社福)さんかく広場
就労支援 B 型事業所『さんかく広場』
高知県高知市和泉町15-16
TEL:088-822-2523(担当:太田)

さんかく広場

「売りやすい・買いやすい・食べやすい」をコンセプトに高知市和泉町にある『さんかく広場』が目指しているのは、また食べたい!とお客さんに思ってもらえるようなパンやお菓子をつくること。パウンドケーキひとつをとってみても、夏は手作りのレモンピールを使ってさっぱりとした風味に仕上げ、甘いものが食べたくなる冬にはキャラメル味に仕立ててみると、季節ごとにしっかりとした変化をつけています。

さんかく広場では、県立春野高校とコラボ商品を作ったり、ご当地限定のお菓子セットを県内の一部道の駅などで販売しています。お菓子やパンを通じて地域と繋がりを築き、地域にとって親しみのある事業所です。



社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車でお越しの方] 高知駅より車で約20分、高知 IC より車で約30分、伊野 IC より車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場: 普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

